



自己評価書作成に当たっての 一般的留意事項

2007年6月5日

高等専門学校機関別認証評価に関する自己評価者等に対する研修会



観点ごとの記述

- 【観点に係る状況】では客観的事実と共に分析し
- 【分析結果とその根拠理由】で自己評価する
- 高等専門学校が当然に実施している事柄に関する記述は出来るだけ簡略(あるいは省略)にして、貴学の特色が明確になるように記述して下さい。



記述はありのままを！

- 実状を**ありのまま**に記述して下さい → 評価者(Peer) → 状況が目につかぶ → 評価し易い
- 「**創作**」を含む記述 → 評価者(Peer) → 状況が目につかばない・訪問調査で実状が分かる → 心証悪化



記述は**具体的に**！

具体的でない記述の例：

- 学生による授業評価の結果を踏まえて、授業改善を実施している。
- 評価結果を改善に活かしている。
- 活発に活動している。
- 多くの成果を上げている。
- 高く評価されている。
- 学生の満足度が高い。



具体的でない記述に対しては…

- 具体的な説明を求める → 二度手間

又は

- 評価対象としない → 折角書いたのに…



資料の引用も具体的に

例：

本学の目的は、学則(資料1-1-1-A)、『小平工業高等専門学校概要』(別添資料1-1-1-5、p.5)、小平工業高等専門学校ウェブサイト(別添資料1-1-1-6、http://www.niad.ac.jp/n_hyouka/kousen/1178465_904.html)、及び『学生便覧』(別添資料1-1-1-7、p.12)等に記載している。その内容は「……………」である。

資料1-1-1-A

本学の目的は、学術の中心として、……………。
……………。
……………。

(出典 小平工業高等専門学校学則)